

令和2年5月18日

日本印度学仏教学会会員 各位

日本印度学仏教学会理事長 下田正弘
第71回学術大会実行委員会委員長 菅野博史

**日本印度学仏教学会第71回学術大会
オンラインリモート会議システムによる開催について**

新型コロナウイルスへの対応のため全国に緊急事態宣言が発令され、大学や研究機関において活動が著しく制限されるなか、日本印度学仏教学会は、今年7月4日と5日の両日、創価大学において予定されている学術大会を、オンラインリモート会議システムによる開催とすることを、去る5月16日の理事会において、正式に決定いたしました。

学術大会は、印度学仏教学全分野の研究者に対し、研究の成果発表とレビューの場を提供する、学会活動の中心をなす事業であります。対面での集会在禁止されるという未曾有の経験のなかにあって、取りうる最善の可能性を選択し、会員が一致協力することによって、この困難を乗り越え、次世代に向けてあらたな未来を開いてゆくことができるものと確信しています。

なお、諸事情によりオンラインリモート会議システムでの発表が不可能な発表者に対しては、発表原稿をウェブ上に掲載してレビューをおこなうという代替手段による発表を、例外的にお認めすることが、理事会において同時に決定されました。

二百五十名を超える発表者が全国から集い、最新の通信手段を介して、二日間にわたって研究成果を発表すること、またそれを自宅において視聴し、討議に参加できることは、かつてない新鮮な経験となるにちがいありません。多数の会員のみなさまのご参加を、心よりお待ちしております。

(＊開催形態の詳細な情報については、「今年度の研究発表について(補足説明)」ならびに、今後開催校からなされる発表をご参照ください。)

今年度の研究発表について（補足説明）

（1）オンラインリモート会議システムによる発表開催の目的

オンラインリモート会議システムによる研究発表導入の目的は、学術大会の対面における開催が不可能な場合、発表予定者と参加申込者の双方に対し、発表の機会と意見交換の場を、通信手段を通して提供することで、対面会議の場合と同様の学術大会の質を確保し、それによって学会誌掲載論文の質を維持することにあります。

（2）オンラインリモート会議システムによる発表の方法

オンラインリモート会議は、一部の大学でオンライン授業のために採用している Zoom を通じて行います。このシステムは複数の参加者が同時に対話可能なテレビ電話のようなものです。発表者も視聴者もインターネットに接続したパソコン等を通じて、自室から研究発表と質疑応答を行うことができます。パネル発表も同様の形式でおこないます。進行にあたっては、司会者とは別に部会進行を技術的に支える「部会ホスト」および「部会ホスト補助」を設けます。そのうえで、部会ホスト、部会ホスト補助、司会者、発表者を交え、学会の前に講習会をおこなう予定です。詳細はあらためて連絡いたします。

（3）上述の発表が不可能な発表者のための代替手段

諸事情によって、オンラインリモート会議システムによる発表が不可能な発表者に対しては、発表者の発表原稿を、参加申込者のみが閲覧できるウェブ上に、学会開催期間中の2日間、掲示し、参加者が掲載論文に対してコメントを投稿し、発表者がそれを閲覧することで質疑の代替といたします。このときに掲載する論文は発表時間15分程度に収まる分量の原稿であり、学会誌掲載の完全原稿ではありません。

（4）オンラインリモート会議システムによる発表が正常に終了しえなかった場合の措置

オンラインリモート会議システムによる発表が、当日、正当な理由によって正常に終了しえなかった場合、学術大会終了後、速やかに（3）と同様の「代替手段による発表」の機会を提供し、発表したものとみなします。

（5）発表の視聴資格

上述の（2）（3）ともに、視聴資格が与えられるものは、一定期間のうちに大会参加費を納入した当学会会員に限られます。参加申込のさいに登録した電子メールアドレスにオンライン発表に関する URL 等の情報をお送りします。セキュリティの理由上、URL などの情報は絶対に他に漏らさないようにしてください。

（6）本発表と学会誌掲載資格の関係

「研究発表および論文掲載に関する規則」の第五条に従えば、大会発表が論文投稿資格の必要条件となります。上述のインターネットを通じた「オンラインリモート会議システムによる発表」および「代替手段による発表」をもって、この条件を満たしたものとみなします。